

我が社を語る



日東防疫株式会社

代表取締役

ふな っ よし お
船津 良生氏

【略歴】

1972年6月生まれ。大分県別府市出身。東京にてマスコミ関係の仕事に従事した後帰郷。父親が経営する当社に入社し、1998年に代表取締役に就任した。「スピード感を保ちながら、人とのふれあいを大切にする」をスローガンとし、お客さまの依頼にスピーディーに対応すると同時に、技術力のある経験豊富な従業員による丁寧な害虫・害獣駆除を行っている。2020年5月には、実弟が経営する岐阜県の株式会社防除研究所とともに、NBK 感染症対策研究所を設立し、新型コロナウイルス感染症の消毒業務を行っている。さらに同年から食品衛生管理コンサルティング業務を開始。食品工場の衛生管理のコンサルティング業務を行うほか、HACCP、ISO 認証を取得するためのサポートも行っている。

日東防疫株式会社は、住宅・オフィスなどの害虫・害獣駆除を営む企業です。プロフェッショナルな技術力と経験を持ち合わせた従業員による丁寧な施工と、顧客からの依頼に対するスピーディーな対応が好評で受注実績も増加しています。また、2020年5月には岐阜県の企業と共同で、新型コロナウイルス感染症の消毒作業を行う組織を設立しました。今回は、同社の創業から現在に至るまでの会社の沿革や事業内容、業務を行う上で大切にされていること、今後の事業展望などについて伺いました。



【聞き手】
大分銀行 鶴見支店
支店長 椋野 摂子

帰郷し父の事業を引き継ぐ

―会社の沿革と社長に就任した経緯について教えてください。

船津：当社は先代である私の父が1970年6月、別府市亀川に布団乾燥機の販売を営む別府衛生センターを創業したのが始まりです。

その後はネズミ駆除や駆除に伴う薬品の卸販売を手掛けましたが、事業を続けるにつれ布団乾燥機の取り扱いよりもネズミ駆除が主要な業務となっていました。そこで、1981年6月に社名を有限会社日東防疫に変更し、別府市南立石へ移転しました。法人化後はネズミ駆除だけでなくその他の害虫・害獣の駆除にも注力し業容を拡大、2008年6月には日東防疫株式会社に商号変更し、現在の所在地である扇山に移転しました。

私は若いころ東京でマスコミ関係の仕事に就いていました。しかし、幼いころから父の影響で害虫・害獣駆除の現場に行き、駆除業務について多少の知識があったことや、防疫業に対する興味もあったため、大分に帰郷し父が社長を務める当社に入社することにしました。

最初は父の下で働きながら業務経験を積んでい

たのですが、1998年に父が大病を患い、その時に社長交代の話があり就任しました。まだ26歳で経営についてよく理解しておらず、従業員とともに勉強の毎日でした。

技術と経験に裏打ちされた丁寧な駆除

―事業内容について教えてください。

船津：主な事業内容は、①害虫・害獣駆除、②食品衛生管理コンサルティングです。

加えて最近では、2020年5月に岐阜県の株式会社防除研究所と共同で「NBK 感染症対策研究所」を設立し、新型コロナウイルス感染症の消毒業務や、消毒液の設置指導などのコンサルティング業務も行っています。

まず①の害虫・害獣駆除についてですが、お客さまから駆除のご依頼が入った場合は、はじめに現地調査を行います。駆除の対象によって有効な薬剤や捕獲方法が異なるため、現地に赴き駆除対象を特定します。最近ではLINEで害虫・害獣の痕跡の写真を送信していただき、それを基にした駆除対象の特定もできるようになりました。

その後駆除作業を行います。駆除の方法は近年大きく変化しています。以前は駆除の際に大量の薬剤を用いて施工するのが一般的でしたが、人体への影響などから「レスケミカル」（最低限の薬剤の使用）が求められるようになってきました。以前は、駆除の薬剤によってアレルギーを起こす方がいましたが、最近の薬剤は臭いや人体への影

